公表資料

相模原看護専門学校令和3年度自己点検・自己評価及び学校関係者評価の結果について

本校では、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に取り組むため、自己点検・自己評価及び学校関係者評価を行い、評価結果についてお知らせしています。

令和３年度の評価結果がまとまりましたので、次のとおり報告します。

令和４年９月２８日

公益財団法人相模原市健康福祉財団
相模原看護専門学校
校　長　水　澤　晴　代

1　自己点検・自己評価

（１）評価方法等

令和３年度の学校教育活動について、教職員による担当者評価及び自己点検・自己評価委員会により評価を行った。

（２）担当者評価

令和４年１月～３月に実施

校長を含む全教員及び事務長・事務次長により評価

（３）自己点検・自己評価委員会

（２）の担当者評価結果について、分析・検討を行った。

開催日　令和４年４月２８日、５月２４日、６月９日、６月２４日

場　所　相模原看護専門学校

出席者　校長、看護学科長、看護学科長補佐、事務長、事務次長

（４）評価項目

「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」における９カテゴリー・１２５項目

（５）評価基準

１２５項目について、次の３段階で評価

よく当てはまる：３　　大体当てはまる：２　　当てはまらない：１

2　学校関係者評価

（１）評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、令和３年度自己点検・自己評価結果について評価を行った。

（２）学校関係者評価委員会

開催日　令和４年７月１３日　午後５時～６時５０分

場　所　相模原看護専門学校

出席者

学校関係者評価委員（４名）

今泉　　弘　相模原市病院協会理事、相模野病院長

篠崎　正義　相模原市医師会事務局長

水谷　武司（委員長）　相模原市医療政策課担当課長

渡邉　加代子　神奈川県看護協会前相模原支部理事、渕野辺総合病院前看護部長

事務局（５名）
校長、看護学科長、看護学科長補佐、事務長、事務次長

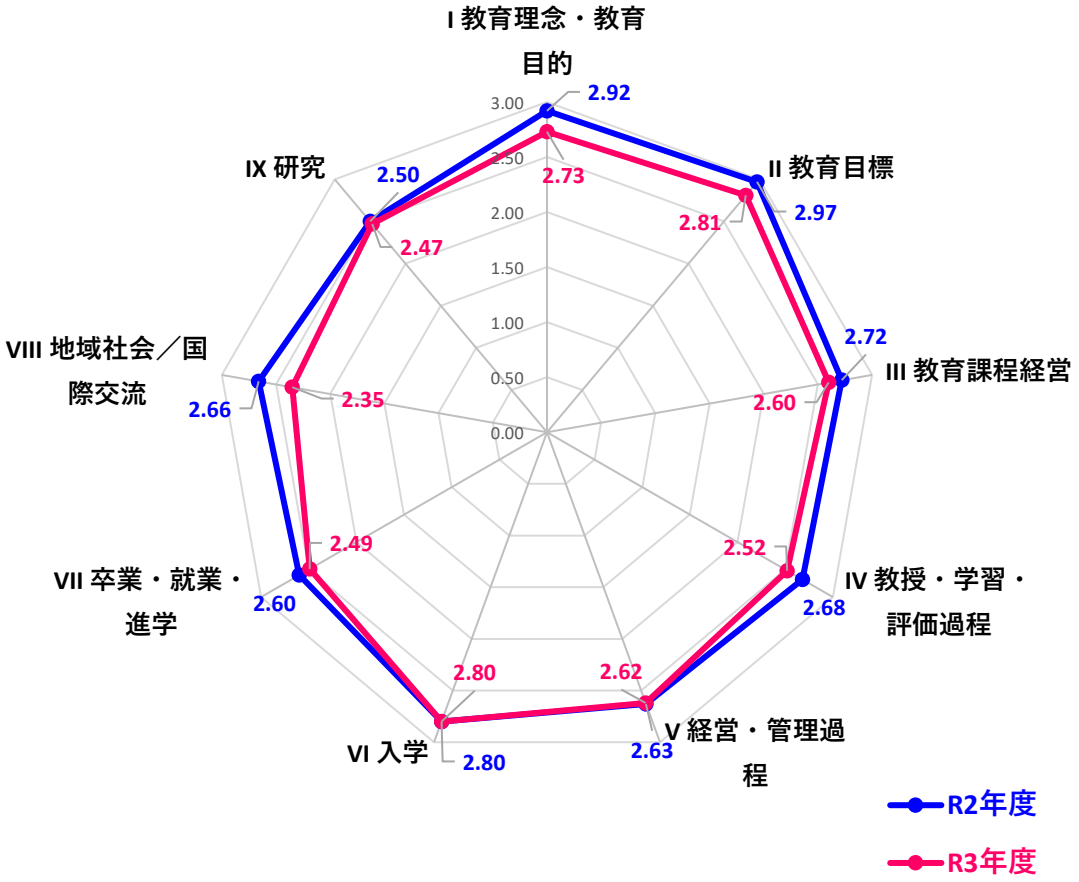
3 評価結果

別紙のとおり

以　上

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価（総括表）

評価項目（群）	平均値 R2年度	平均値 R3年度
Ⅰ　教育理念・教育目的	2.92	2.73
Ⅱ　教育目標	2.97	2.81
Ⅲ　教育課程経営	2.72	2.60
Ⅳ　教授・学習・評価過程	2.68	2.52
Ⅴ　経営・管理過程	2.63	2.62
Ⅵ　入学	2.80	2.80
Ⅶ　卒業・就業・進学	2.60	2.49
Ⅷ　地域社会／国際交流	2.66	2.35
Ⅸ　研究	2.50	2.47
	2.72	2.60



卒業生は74名、うち15回生は73名（入学者の91.3%）であった。看護師国家試験は74名中74名全員（100%）が合格した（昨年度は73名卒業、1名不合格）。市内就職率は74名中70名（94.6%）（昨年94.5%）であり、地域に貢献する看護師の育成という本校の理念・目的にかなっている。

一方、教職員による自己評価の採点平均は、2.72から2.60（3点満点）へと全体的に下がった。主たる原因として、新型コロナウイルス感染症への対応と新カリキュラムの検討で多忙な一年だったことが考えられる。

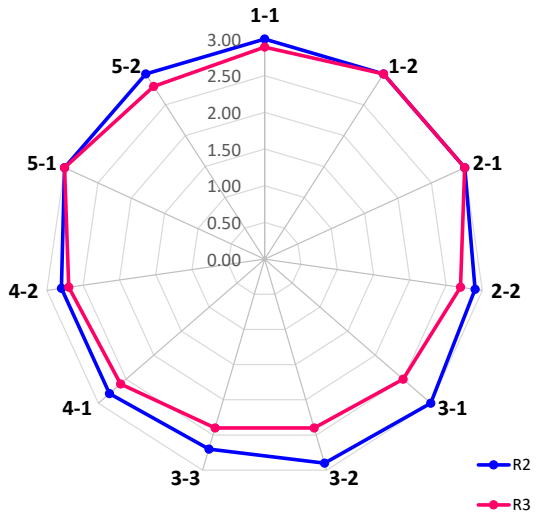
また、自己点検・自己評価の評価方法について、今年度から内容理解を深めるために評価の視点を提示した。回答者は昨年と同様に、管理職、実習調整者は個人で記載、他の教員は学年ごとに話し合い、結果を記載した(n=10)が、評価の視点を提示したものの、内容の十分な理解には至らなかった可能性がある。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

Ⅰ　教育理念・教育目的			R2	R3	R3-R2
	1-1	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	3.00	2.89	-0.11
	1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。	3.00	3.00	0.00
	2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3.00	3.00	0.00
	2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	2.90	2.70	-0.20
	3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3.00	2.50	-0.50
	3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	2.90	2.40	-0.50
	3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	2.70	2.40	-0.30
	4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	2.80	2.60	-0.20
	4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	2.80	2.70	-0.10
	5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3.00	3.00	0.00
	5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3.00	2.80	-0.20
		Ave.	2.92	2.73	



【特記事項・課題】

・本校の特色として「地域に貢献できる」人材の育成を掲げており、市内就職率は9割以上を維持できている。

・教育理念、教育目的は、変更していない。それにも関わらず評価が低下した原因は、今回初めて自己評価の視点を提示したものの、評価項目の内容と現状の理解が十分でなかった可能性がある。

・令和4年度より運営される新カリキュラムでは、社会人基礎力の育成を含め、全教員が改正の趣旨を理解し、運用できるよう取り組む。

【学校関係者評価委員からの意見等】

〇評価年度は、看護師国家試験１００％合格、市内医療機関就職率９４．６％と好成績であった。地域に貢献する看護師の育成という教育理念・教育目的に合致しており、引き続き継続して取り組んでいただきたい。

〇一方で、前回と比べ点数は若干下がった。教育理念・教育目的は変わっておらず、好成績であるのに、点数が下がるというのは一般的には考えにくいことである。自己点検・自己評価の視点を提示したとのことだが、捉え方の問題なのか、評価項目自体の問題なのか確認する必要がある。

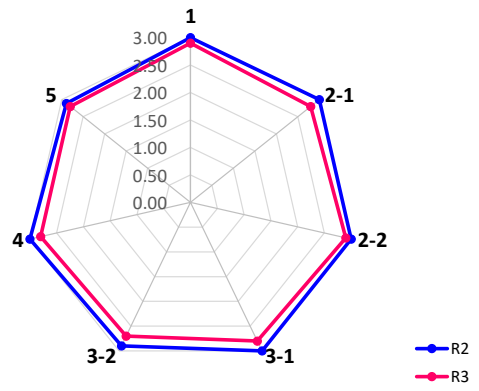
〇新カリキュラムに合わせ、評価方法を見直すとのことなので、期待する。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

Ⅱ　教育目標			R2	R3	R3-R2
	1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3.00	2.90	-0.10
	2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	3.00	2.80	-0.20
	2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	3.00	2.90	-0.10
	3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	3.00	2.80	-0.20
	3-2	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	2.90	2.70	-0.20
	4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3.00	2.80	-0.20
	5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2.89	2.80	-0.09
		Ave.	2.97	2.81	



【特記事項・課題】

・教育目標は、教育理念・教育目的と一貫して、知識・技術の修得と看護師として学び続ける使命と責任を自覚できるよう教育目標を設定している。

・令和4年度からの新カリキュラムでは、時代のニーズに答えられ、より根拠を持った看護実践能力の向上を目指す教育目標を設定した。

【学校関係者評価委員からの意見等】

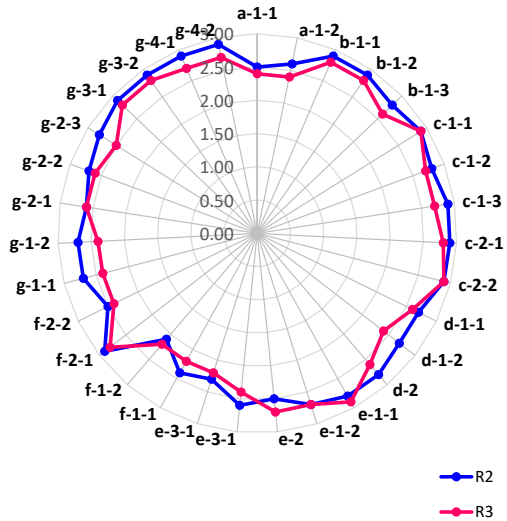
〇若干ではあるが、すべての項目で点数が下がっている。新型コロナウイルス感染症対応への苦慮、新カリキュラム策定過程における課題への気付き等が一因とのことだが、こうしたことを踏まえ、設定した新しい教育目標での今後の評価に期待する。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

Ⅲ　教育課程経営			R2	R3	R3-R2
a.教育課程経営者の活動	a-1-1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	2.50	2.40	-0.10
	a-1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	2.60	2.40	-0.20
b.教育課程編成の考え方とその具体的な構成	b-1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2.90	2.80	-0.10
	b-1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2.90	2.80	-0.10
	b-1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2.80	2.60	-0.20
c.科目、単元構成	c-1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	2.90	2.90	0.00
	c-1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2.80	2.70	-0.10
	c-1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	2.90	2.70	-0.20
	c-2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である	2.90	2.80	-0.10
	c-2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	2.90	2.90	0.00
d.教育計画	d-1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	2.70	2.60	-0.10
	d-1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	2.70	2.40	-0.30
	d-2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	2.80	2.60	-0.20
e.教育課程評価の体系	e-1-1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	2.80	2.90	0.10
	e-1-2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	2.70	2.70	0.00
	e-2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	2.50	2.70	0.20
	e-3-1	教育課程を評価する体系を整えている。	2.60	2.40	-0.20
	e-3-1	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	2.30	2.20	-0.10
f.教員の教育・研究活動の充実	f-1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	2.40	2.20	-0.20
	f-1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	2.10	2.20	0.10
	f-2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	2.90	2.80	-0.10
	f-2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	2.50	2.40	-0.10
g.学生の看護実践体験の保障	g-1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	2.70	2.40	-0.30
	g-1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	2.70	2.40	-0.30
	g-2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	2.60	2.60	0.00
	g-2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	2.70	2.60	-0.10
	g-2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	2.80	2.50	-0.30
	g-3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	2.90	2.80	-0.10
	g-3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	2.90	2.80	-0.10
	g-4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	2.90	2.70	-0.20
	g-4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	2.90	2.70	-0.20
		Ave.	2.72	2.60	



【特記事項・課題】

・教育課程は、各看護学の領域ごとに複数配置した教員により検討し、結果を教員会議に諮り教員全体で検討し共有した。評価の低下は、新カリキュラムの検討過程を通して、現行の教育課程編成と教育実践、評価の関係について、課題が明確になったことも要因と考える。

・教員の担当科目と時間数については、本人の経験と希望を配慮し配分しているが、ばらつきもある。コロナ禍による実習計画の変更、新カリキュラムの検討などもあり、授業準備時間の確保に苦慮した。しかし、授業案は電子媒体での保存と共有を図ることで、授業準備時間の削減につなげている。

・新カリキュラムでは、ディプロマポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを明確にし、学習ガイダンスの各科目にディプロマポリシーとの関連を示した。

・本校の新型コロナウィルス感染者は、延べ13名であったが、教員、学生共に感染防止対策に取り組み、校内での集団感染はなかった。

・臨地実習は、感染拡大により基礎看護学実習Ⅰの2日間、老年看護学実習Ⅱの全期間を学校内での実習とした。校内で複数の感染者や濃厚接触者が発生した際は、適宜休校やオンライン授業とした。学内実習での実践については、模擬患者を依頼し、設定された状況に対して学生が計画した看護を実践し，評価を行った。

【学校関係者評価委員からの意見等】

〇前回、最も点数が低かった「教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている。」の数値が改善したのは良いことである。

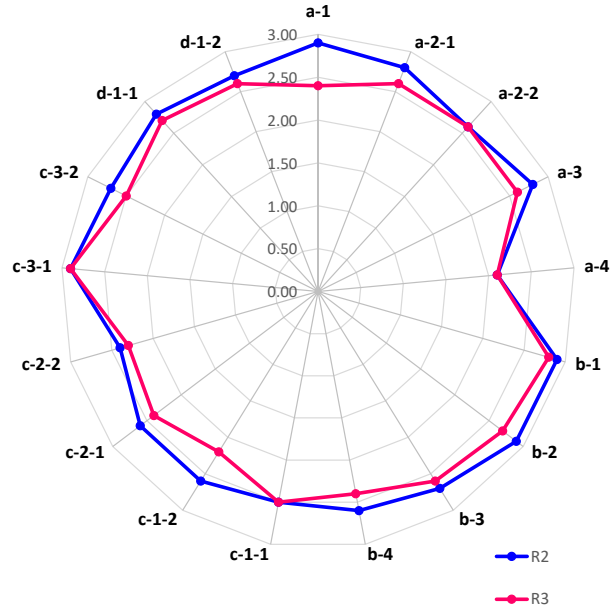
〇実習計画の急きょ変更、新たな補習の設定など、教員が前向きに取り組むことで評価が厳しくなることもあるのではないか。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

Ⅳ　教授・学習・評価課程			R2	R3	R3-R2
a.授業内容と教育過程との一貫性,看護学としての妥当性,授業内容間の関連と発展	a-1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.90	2.40	-0.50
	a-2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	2.80	2.60	-0.20
	a-2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	2.60	2.60	0.00
	a-3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	2.80	2.60	-0.20
	a-4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2.10	2.10	0.00
b.授業の展開過程	b-1	授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。	2.90	2.80	-0.10
	b-2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2.90	2.70	-0.20
	b-3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	2.70	2.60	-0.10
	b-4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	2.60	2.40	-0.20
c.目標達成の評価とフィードバック	c-1-1	評価計画を立案し、実施している。	2.50	2.50	0.00
	c-1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	2.60	2.20	-0.40
	c-2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2.60	2.40	-0.20
	c-2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	2.40	2.30	-0.10
	c-3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	2.90	2.90	0.00
	c-3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	2.70	2.50	-0.20
d.学習への動機づけと支援	d-1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	2.80	2.70	-0.10
	d-1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.70	2.60	-0.10
		Ave.	2.68	2.52	



【特記事項・課題】

・授業内容は、学習ガイダンスに則り科目目標が達成できるよう、毎年見直しを行っている。 しかし、1つの科目を領域を超えた複数教員で担当しており、科目全体の一貫性が見えにくい部分がある。

・「授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっているか」は、昨年に続き低評価になった。カリキュラム改正に向けて教授内容を検討する中で、授業内容の重複や整合性など現在の課題が明らかになった点も要因の一つと考える。

・今年度より、各看護学領域のリーダー会を開催し、学習進度や演習計画の検討を行った。演習を、更に計画的に運用することが今後の課題である。

・実習評価については、不合格の学生に対しその理由を明確にして再実習計画を立案し、会議で検討した。コロナ禍により、年度を超えて再実習を計画した学生もいた。

・目標達成の評価は、卒業時到達目標評価、看護技術経験の集計、全科目での授業アンケートを実施し、結果を検討することで、授業の改善につなげている。しかし、全教員で課題の検討が十分行なえていない。課題と対策について会議で検討し、共有することが今後必要である。

・看護実践能力については、臨床現場での実践経験が難しくなっている現状がある。新カリキュラムでは、習得すべき看護技術のマトリックスを見直し、各看護学領域で確実に学習できるようシミュレーション等を活用していく。

【学校関係者評価委員からの意見等】

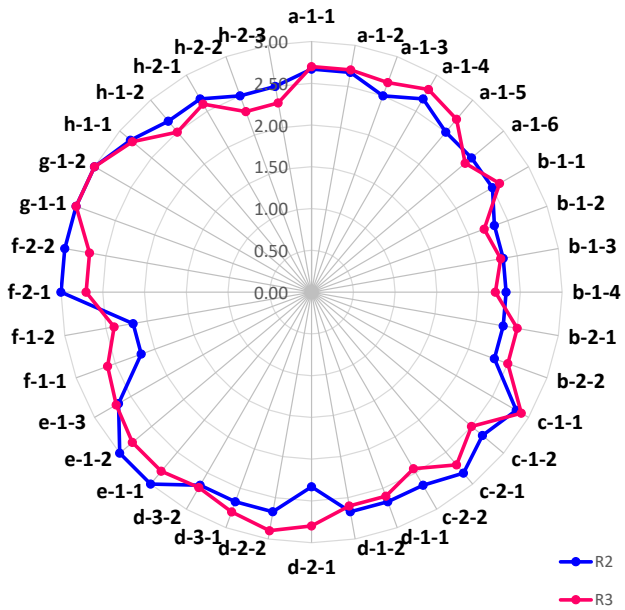
〇前回に引き続き「授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。」の点数が低いが、シラバス等で講義内容が示されているのであれば、必ずしも重複を否定するものではない。複数の教員による視点を変えた講義は学生の学びを深めることにもつながる。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

V　経営・管理過程			R2	R3	R3-R2
a.設置者の意思・指針	a-1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	2.67	2.70	0.03
	a-1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	2.67	2.70	0.03
	a-1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	2.50	2.67	0.17
	a-1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	2.67	2.80	0.13
	a-1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	2.50	2.70	0.20
	a-1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	2.50	2.40	-0.10
b.組織体制	b-1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	2.50	2.60	0.10
	b-1-2	意思決定システムが明確になっている。	2.33	2.20	-0.13
	b-1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	2.33	2.30	-0.03
	b-1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	2.33	2.20	-0.13
	b-2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2.33	2.50	0.17
	b-2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2.33	2.50	0.17
c.財政基盤	c-1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	2.83	2.90	0.07
	c-1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	2.67	2.50	-0.17
	c-2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	2.83	2.70	-0.13
	c-2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	2.67	2.44	-0.23
d.施設設備の整備	d-1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	2.67	2.60	-0.07
	d-1-2	管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	2.67	2.60	-0.07
	d-2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	2.33	2.80	0.47
	d-2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	2.67	2.90	0.23
	d-3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。	2.67	2.80	0.13
	d-3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	2.67	2.70	0.03
e.学生生活の支援	e-1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3.00	2.80	-0.20
	e-1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3.00	2.80	-0.20
	e-1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	2.67	2.70	0.03
f.養成所に関する情報提供	f-1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。	2.17	2.60	0.43
	f-1-2	関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	2.17	2.40	0.23
	f-2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。	3.00	2.70	-0.30
	f-2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	3.00	2.70	-0.30
g.養成所の運営計画と将来構想	g-1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3.00	3.00	0.00
	g-1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3.00	3.00	0.00
h.自己点検・自己評価体制	h-1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	2.83	2.80	-0.03
	h-1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2.67	2.50	-0.17
	h-2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	2.67	2.60	-0.07
	h-2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	2.50	2.30	-0.20
	h-2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	2.50	2.30	-0.20
		Ave.	2.63	2.62	



【特記事項・課題】

・校長は、第2次中期経営計画に基づき、毎年度策定する事業計画について、全教員に教職員会議で説明している。新カリキュラム作成にあたり、学校の理念、教育目的、経営の方針などについても検討を行ったことが、教職員全体の理解を深めた。

・全学年にipadが貸与され、資料の配布や課題提出、グループワーク等に活用できた。オンライン授業も延べ25回実施した。

・学校の広報活動としては、学校説明会4回、オープンキャンパス8回、高校への訪問説明会26校、一日看護体験2日間、高校へ学生募集要項の発送を行っている。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、9月以降はオンラインでの学校説明会を掲載し、総再生回数600回以上であった。

・組織体制や自己評価について、一部に厳しい評価をつける教員もいるが、現在の調査方法ではその根拠が不明である。取り組み状況の情報提供は丁寧に行い、更に教員間での意思疎通を図っていく。また評価方法については、評価項目も多く、3段階の評価では判定が偏りがちであることから、評価項目、方法の改善を図る。

【学校関係者評価委員からの意見等】

○組織体制や自己点検・自己評価体制について、点数が低い項目については、理由を明確にし、教職員間で意思疎通をしっかりと図っていくことが重要である。

○施設設備の整備について、新校舎への非常階段の設置、防犯カメラの更新、すべての学生へのタブレット端末の貸与、自動販売機の増設等の改善が図られたとのことであり、安全・安心の確保、ＩＣＴの推進、福利厚生の充実の観点から大いに評価したい。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

Ⅵ 入学			R2	R3	R3-R2
	1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	3.00	2.80	-0.20
	2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	2.60	2.80	0.20
		Ave.	2.80	2.80	

【特記事項・課題】

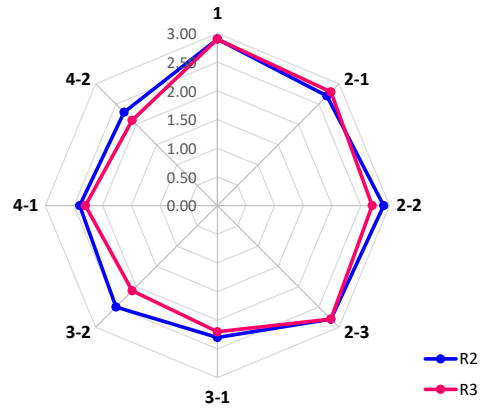
・受験者数は、244名（昨年195名）と増加したが、辞退者が多く、2次試験を行い入学者80名を確保した。本校の求める人材を確保できるよう、受験生確保の努力を継続する。

・今後も18歳人口は減少し、受験生の確保が大きな課題である。指定校の厳選や県内看護専門学校の入試状況、当校入学区分による入学後の履修状況の評価を行っていく。

【学校関係者評価委員からの意見等】

〇少子化や大学志向が進む中で、受験生を確保することは、極めて重要である。毎年、試験結果を分析し、入学試験方法の見直しに生かしていることは評価できる。

Ⅶ 卒業・就業・進学			R2	R3	R3-R2
	1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	2.90	2.90	0.00
	2-1	卒業時の到達状況を分析している。	2.70	2.80	0.10
	2-2	卒業生の就業・進学状況を分析している。	2.90	2.70	-0.20
	2-3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	2.80	2.80	0.00
	3-1	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	2.30	2.20	-0.10
	3-2	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	2.50	2.10	-0.40
	4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	2.40	2.30	-0.10
	4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	2.30	2.10	-0.20
		Ave.	2.60	2.49	



【特記事項・課題】

・卒業生は74名。うち15回生は73名（入学者の91.3%）であった。国家試験は74名全員（100%）が合格した。

・令和3年度卒業生の市内就職率は94.6%、県内は95.9%、実習施設への就職率は95.9%であった。地域に貢献する看護師の育成という教育理念にかなった結果である。

・令和3年度は、卒業生の1年以内の早期離職者が1割以上であった。機会をとらえ、病院とも情報交換を行いながら、令和4年度には卒業生の状況調査を実施し、今後の教育活動に生かしていく。

・就職に関しては、教員が入学前および在学中に、本校が相模原市民の健康保持増進に寄与することが目的の学校であり、地域で活躍できる人材を育成していることを説明している。実習施設の受け入れ状況も良く、市内就職率が全体の9割を超えている。引き続き、実習施設との連携を図っていく。

【学校関係者評価委員からの意見等】

〇卒業生の１年以内の離職者が１割以上に上ったことが、点数の低下に影響していると考えられる。

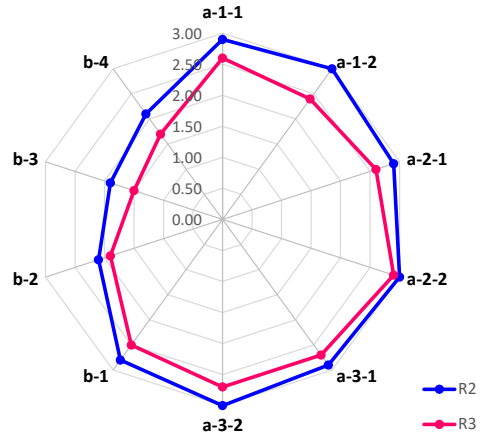
〇コロナ禍の影響もあり、職場での人間関係が構築できず、退職してしまうケースが目立つ。実習経験の不足、実践能力への不安等、様々な背景が考えられるが、学校と就職先が具体的にどのように連携できるのか考えていく必要がある。

令和3（2021）年度　自己点検・自己評価　評価項目別対比

・・・水色セルは、各カテゴリーの最低値

3…よく当てはまる　2…大体当てはまる　1…当てはまらない

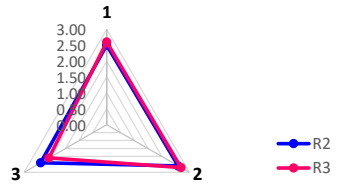
Ⅷ　地域社会／国際交流			R2	R3	R3-R2
a.地域社会	a-1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	2.90	2.60	-0.30
	a-1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	3.00	2.40	-0.60
	a-2-1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	2.90	2.60	-0.30
	a-2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	3.00	2.90	-0.10
	a-3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	2.90	2.70	-0.20
	a-3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	3.00	2.70	-0.30
b.国際交流	b-1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	2.80	2.50	-0.30
	b-2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	2.10	1.90	-0.20
	b-3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1.90	1.50	-0.40
	b-4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	2.10	1.70	-0.40
			2.66	2.35	



【特記事項・課題】
・市病院協会が主催する看護職確保対策事業に教職員を派遣し、現状を把握している。令和3年度は中止になったが、技術研修会では本校の実習室、教材を提供し、潜在看護師の復職支援事業に協力している。
・コロナ禍の影響により、地域行事は健康祭のみの参加となった。その他、学生がワクチン接種のボランティアに参加したり、学校のシミュレーションモデルを、地域の施設に貸し出して職員の研修に活用して頂いたりしている。
・社会福祉法人運営のパン販売事業協力のため、月2回の頻度で学校内に場所を提供している。
・新カリキュラムでは、地域社会の理解をさらに深めるためにフィールドワークを取り入れていく予定である。

【学校関係者評価委員からの意見等】
〇コロナ禍の影響で点数が下がったのはやむを得ない状況がある。今後に期待したい。

Ⅸ 研究			R2	R3	R3-R2
	1	教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	2.50	2.60	0.10
	2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	2.60	2.70	0.10
	3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	2.40	2.10	-0.30
			2.50	2.47	



【特記事項・課題】
・外部講師による研究授業を年2回実施し、学びを深めている。
・雑誌投稿は2本が実施された。しかし、多忙なこともあり、個人が中心であった。
・教員が研究活動を計画、実施、評価できる体制は備わっているものの、コロナ対策、新カリキュラムの検討など時間的な余裕がなかった。
今後教員会議で、研究を実施した人の発表の機会を持つなど、全体で研究に対する意識を高め、研究活動に積極的に参加できるよう、さらに支援を続けていく。

【学校関係者評価委員からの意見等】
〇教員個別の研究支援体制はある程度整っているようなので、教員全体の資質の向上につなげていく仕組みが必要である。

評価全体に係る意見等
〇最終目標である看護師を志し入学した学生全員が、３年間で卒業でき、国家試験合格し、就職して地域医療に貢献できる人材となれるよう教職員一丸となって取り組まれたい。